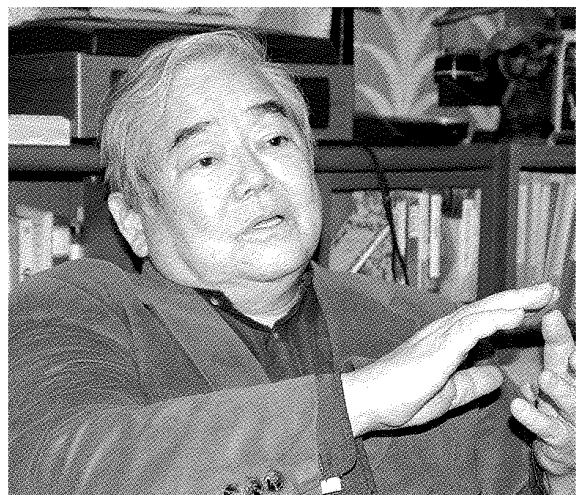


(11) 2015年(平成27年)12月11日(金曜日) (第3種郵便物認可)

十勝毎日新聞

**南相馬の佐々木孝さん(元大学教授)に聞く**

【福島県南相馬市】東日本大震災と福島第1原発事故で被災した福島県南相馬市。震災後も現地にとどまり、ブログ発信を続ける帯広市出身の元大学教授佐々木孝さん(76)=スペイン思想研究家=に、震災から5年を迎える現地の状況などを聞いた。(聞き手・小林祐己)



佐々木孝さん(元大学教授)  
に聞く

福島第一核電站事故は、2011年3月11日午前1時46分頃に発生。その後、東京電力は、原子炉の冷却水供給不足による過熱を防ぐため、安全弁を開いて海水を注入する「スルーフロー」を行った。これが原因で、原子炉建屋内に海水が漏れ、建屋外へ漏洩する事態となってしまった。

佐々木さんは、この事故によって、多くの人々の命が失われたことを痛感。また、原発事故のリスクに対する警戒心が高まることで、社会の意識が大きく変わったと感じている。

現在は、南相馬市で、震災からの復興活動を行っている。また、元気な姿で、元気な言葉で、元気な行動で、元気な人生を送っている。

**ものを考へる人間でありたい**

—再稼働が社会で一定の理解を得る状況を、被災地から見てどう感じるか。

原発は20世紀最大のペテンだ。原子力エネルギーの循環は成功していないし、廃棄物を地中に埋めるなど、毒性が消えるのは何万年という単位。根本的な見落とは、人間の幸福に大切なこと。バックしないと、人間の思考回路は端端まで進んでいく。

**「くに」…先祖宿る美しい風土****放射能 実害より心理面 補償金が人々を分けた**

—震災から5年。南相馬の復興の状況は、依然として大きなお金が動いているのは間違いないが、本当に復興になっているかはなかなか見えない。この線量は0・25mSvなど低いが、自宅隣の幼稚園は80人ほどいた園児が今は半

なかなか見えない。この線量は0・25mSvなど低いが、自宅隣の幼稚園は80人ほどいた園児が今は半

なかなか見えない。この線量は0・25mSvなど低いが、自宅隣の幼稚園は80人ほどいた園児が今は半